

農園便り 6月号

2024/06/01

(138号)

文責 筒口典康



5/29 枇杷たちが色づく 大層甘露、甘露 ガレージの上のピワ

5月8日 枇杷の青い実に薄らと色付き始めた。

道路に垂れさがる。脚立を懸けて太枝を切る。掴もうとした枝は既に切れている。・・・で、掴んだつもりが・・・、で、で、転落。救急車。「田中脳神経外科医院」に運ばれる。入院は無かった。ご近所の奥様にも大変お世話になりました

今日は5月25日。胸骨4箇所痛みが続く。そのうちの2箇所は、先月と1年前の古傷である。『全治2ヵ月の重症だ』。『寝ているしかありませんヨ』。

と先生が言う。今年、有機・無農薬で野菜を作り始めて、十数年の中でも最も順調な滑り出し。それなのに・・・ダウン。残念無念。

我身が痛んで、清瀬の松村さんの苦しみが解り、ご自宅にお見舞いの電話を入れる。『本人は家にすぐにでも帰りたがるので、とても困っています』と、奥様。昭和記念病院で、リハビリ中です・・・と・・・。ご苦心は大変なものでありましょう。

耕区57区、北側から。ダイコン(三太郎)、小松菜、サニーレタス。

隙間の空いた所にアオジソ、カブ。美味しいうろ抜きダイコン。小松菜の茹菜。レタスはサラダでうまい。嬉しくいただいております。

それらの野菜列の南側に1列、ブロッコリー。中央作業路に近い養分多めの畝。この北側の広畝に深い溝を掘り、追肥溝を作っていく予定。

で、その南にトマト苗を植えた。大・大・中・ミニ、4本。トマト列に沿って、長ネギ一列。今の所機嫌よく育っている。葱列には乾燥させておいたミカンの皮を「土作り」時に、入れた。カニ殻ペレット肥(農協)、「糠」も。

マルチには、竹チップ(千葉県かぐや姫)。その上に刈草を敷くつもりである。



4/30 ダイコン、小松菜、レタスブロッコリー

5/02 小松菜、ジャガイモ、

畑の中央に設けた作業路

コンテナの底網(サナ)で土留め。万能杭で固定する。通路は、15 cmほど掘り下げる。排水溝として使う。溝の端は、さらに掘り下げた穴に割り竹を束ねて、押し込む。豪雨に合っても水溜まりはできない。肥料袋の置き場にしたり特別な植物の鉢を置いたり、色々活用している。

この作業路は、土寄せ時の「土」を作る場所としても使います。籾殻、籾殻燻炭、自作のボカシ肥、「糠」、…。手持の有機物を混ぜて、搦って、ジャガイモ、サトイモ、ショウガ列の盛り土に。更に盛り土の上に、竹チップでマルチ。…で、…そこで、…転落。1箇月間の天罰…。寝ていられない。自然栽培になるより致し方なくなりました。完治まで、2ヵ月にかかるようです。

コンテナの水槽は、息子にメダカを入れてもらいました。安心しました。水溜まりがあると「蚊」がやってきますので、メダカは、必要です。クワイ、姫蓮根、クレソン、芹、稲…色々植えていくつもり。遊んでおります。楽しんでおります。トンボが来れば、「ヤゴ」。「ミズスマシ」も来ると良い。

小鳥や昆虫たちの水飲み場である。



5/02 中央作業路に置かれた燻炭 サトイモの鉢など キュウリ、ネギ列 水槽を置く

「洋子邸」の管理会社の元気な女性が来られまして、「あっ」という間に前庭を片付けてしまわれた。若い方の元気、羨ましい。ビルベリー(桑の実)が沢山採れました。大層テキパキした担当者に感心した。藪が無くなりスッキリ。洋子ちゃんありがとうございました。

今年の「枇杷」は、甘い。

このところの晴天で糖分がのったせいでありましょう。ニュースでも、房総の「ビワ」が、甘いと…。台風1号接近中。風害が出ないと良いのですが…。房毎に1果か2果にして、袋掛けで、商品並みの大果になります。それにしても、あの茶色の種子は何かならないもののでしょうか。良質のデンプンのようでして、食べられるように工夫した方がいると聞きました。他に食べるものがいくらでもありますので、商品化されていない。

ビワは、傷がつきますと、痛みが早い。直ぐに「スエ」てくる。日持ちが悪い。収穫のピークは、1種類だと4～5日で終る。それで、2～3種は、植えたい。島で暮らしていた時に、目が覚めると人の気配。縁側に大笨一杯の「ビワ」が届く。食べるのが大変でした。枇杷腹、ビワハラ。沢山いただいた。ビクリグミ、ビルベリー(桑)、ビワ、ヤマモモ、イチゴ…と続く。梅雨入りも近い。

西山君がまいりまして、大声で、『筒口さんお宅の小庭、茂りすぎだよ!』。『先ず、竹は止めよう!』。「余計なお世話」。

杉並の中瀬中の茶庭の「竹」は、西山君の畑から戴いて植えたものだ。で

も、竹については、世間様の目にはそのように見えるかと…。『まるで、ジャングルだ…』。

2年前に切ってもらった業者の電話番号を探す。裏庭に出て、幹から切る木をきめる。まず、ヤマモモ3本。その内1本は枯れ木。ビワ1本。太いやつ。今年3年ぶりで花をつけた栗。栗は切るか切らないか、迷っている。

30~35万円ぐらいはかかるであろう。もう自分で切ることはできない。終活の一つ。妻は、とにかくスッキリさせたいと言う。

西側の門の所、南の木々も茂りまくっている。チューリップ、水仙は姿を消した。山草・野草が繁殖している。日光が地面に届くように樹上の枝を掃うと光量が合うものたちが優勢になる。その管理が面白い。大きめのプラスチック池を埋めておいたのは気に入っている。茨城の水郷から取り寄せた雑魚を放したが、メダカが生き残った。メダカが一番根性がある。オタマジャクシを早めに処分しないと池全体が腐敗し、絶滅する。そこで、風呂の残り水を入れている。

池に溜まったヘドロは、畑の追肥溝に入れる。

3日もたてば臭みは無くなる。先入者の有効菌(EM菌)が勝るのである。ヘドロの中には赤色硫黄菌などの、窒素固定菌も居ると言う。川エビも沼エビも溜池では長続きしない。タニシは、結構生き残っている。

5月28日、2階の屋根を超えた「竹」を切る。畑のマルチ材として細かく割って使う。3か月ほどで分解してしまう。養分の補給にもなる。

5月29日、台風1号近づく。



5/28 竹を切る。潰しまして敷き藁のように敷く（マルチ材） 今年3回目のジャボチカバ

竹林を枯す

地上部 1mの所で総て切る。第 1 枝を残さない。海草を置く、撒く、敷く。海草の仲間の雑草が良い。ヨウ素(I)の成分が有効なのである。市販のヨウチンを薄めて撒く。薬局でヨウ素液も手に入るが、劇薬で危険。竹林を囲んで「ソバ」を栽培する。地下 40~50 cmのフェンスで、囲む。通路幅、2~3mのフェンスで囲む。水を遮断する。乾燥帯を作る。また、竹は、小川を越えられない。最悪の方法であるが、枯葉剤(=除草草)を竹の節に注ぐ。この方法は、薬害が恐ろしい。竹も笹も枯れてしまう。生命体の命を奪う。

竹林を元気にさせるのは、髪の毛。 隣の庭の珍しい品種を呼び込むのに大量の髪の毛を置くと根が養分(=N)を取りにやって来ると言う。定かではないが。竹林管理に多量の腐葉土を使うのも納得できる。

色々を書きましたが、静岡県三島市の竹林公園にある「竹・笹学会」の機関紙で手に入れた資料、から…です。三島駅北口、バスで、「竹林公園前」下車。

三島駅から見る富士山は、素晴らしい。

久しぶりにスイカを！

パパイヤで、根耕させる！



5/02 スイカを植える 稲藁で、マルチ。

5/03 パパイヤで、根耕を狙う T、